茶畑 SRtimes

第 158 号「第 6 回国際交流行事（講演会）」
2022 年 12 月 7 日発行
発行元　第 6 回国際交流行事参加者

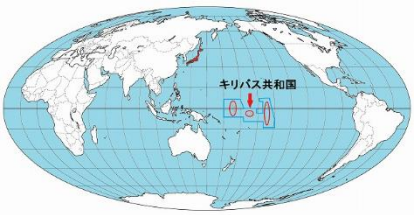
11 月 30 日(木)に公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワークの協力を得て，SDGs 環境出前講話が第 6 回国際交流行事として開催されました。一般社団法人日本キリバス協会代表理事・前キリバス共和国名誉領事・大使顧問のケンタロ・オノ氏による「国がなくなる？キリバス共和国と地球温暖化」と題する講演を英語でしていただきました。一部大事なメッセージは日本語でお話しいただきましたが，英語でも日本語でもキリバスや地球に対する熱い思いを感じる 1 時間半でした。1 年生 13 名 2 年生 33 名が参加しました。

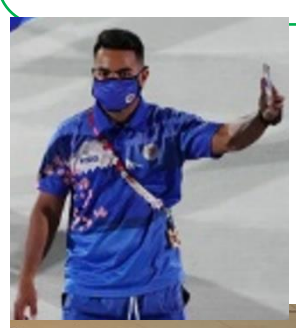
参加者のレポートから講演内容の一部を紹介します。

The world is connected, so think globally, act locally.

ケンタロ・オノ氏は幼い頃から外国に興味を持ち，小学 5 年生の時にキリバスのことを知る。高校一年生の時に，キリバスの高校に通いたいと領事館に手紙を書き，1 人でキリバスに渡航。美しい海，空，親切な人々に魅了され 23 歳でキリバスに帰化，日本人では初めてのことであった。会社経営をしながら，政府関連の仕事に従事。東日本大震災を機に，再び仙台に戻り講演活動を続ける。令和元年には宮城県ストップ温暖化大賞を受賞。

キリバスは，ギルバート諸島，フェニックス諸島，ライン諸島からなり，赤道付近に位置する。首都はタラワ。人口は約 12 万人。1979 年にイギリスから独立。1941 年～43 年には日本の占領下にあった。言語はキリバス語と英語。19 世紀は植民地支配，20 世紀は二度の世界大戦，そして 21 世紀は気候変動に直面している。





日本とキリバスとは様々に関わってきた。明治時代には南洋貿易，現代では漁業やインフラ整備，マングローブの植林，宇宙開発の分野などで関係がある。日本は，道路や病院を作るなどインフラ整備等の国際協力をし，海外青年協力隊も派遣している。日本への感謝を示すため，東京オリンピックに参加した際のキリバスの選手のユニフォームには，富士山と桜が描かれていた。

風景がとてもきれいで豊かな文化を持ち，温かな人が多いキリバス共和国が，地球温暖化や気候変動によりなくなってしまうかもしれない。その原因は４つあり，1 つ目は人間が化石燃料を使い過ぎてしまったこと。2 つ目は人間が森を破壊しすぎてしまったこと。3 つ目は海を埋め立て過ぎてしまったこと。4 つ目は人間が食べ物を無駄にし過ぎていることである。その結果 CO_2 が大気中に増えて太陽熱を貯め込み，地球温暖化が進行してしまう。

キリバスの人々は，他国の人々が排出した CO_2 による地球温暖化の影響を大いに受けている。キリバスの島々は平均で海抜 1.5m，幅が平均で数百ｍしかないため，わずかな海面上昇でも甚大な被害を受けてしまう。しかし，世界の人々がもっと気候危機に向き合い，対処することで地球温暖化は解決できるだろうとの希望を持ち続けている。「愛」の反対は「憎悪」ではなく，「無知」や「無関心」だ。

【参加者の感想】

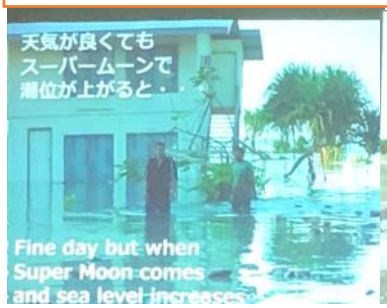
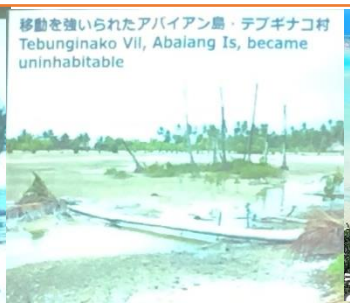
今まで学校でも地球温暖化について学習してきた。しかし，それを知識として吸収するだけで終わり，現実ではこんなにも苦しんでいる人々がいるなんて知らなかった。「地球温暖化が進む中，希望を忘れてはいけない」という言葉が特に印象深かった。その希望を実現するために必要なことは何かを考え，行動に移して持続可能な社会形成に向け努力したいと思った。(1 年)

恵まれた環境の中で学校に通うことができることのありがたさを感じた。日本語と英語を交えた説明でとてもわかりやすかった。地球温暖化はキリバスのような小さな島国だけの問題でなく，私達全員にとっての大きな問題であると思った。食べ物を無駄にしないなど小さなことから問題解決に取り組んでいきたい。(1 年)

ケンタロ・オノさんの講演は小学生の頃に何度か参加したことがあり，そのたびに地球温暖化に危機感を抱く。その危機感が最近薄れてしまっていた。他人事に捉えず，「これって地球にとってどうなの？」と考えながら行動したい。「愛の反対とは無知，無関心」この言葉が強く印象に残った。まずは，キリバスの人々，問題など色々なことを知りたいと思った。(1 年)

高校を辞めてキリバスの学校に 1 人で赴いたというオノさんのお話を聞いて，自分の意志をしっかり持っていれば何でもできるんだと思った。また，キリバスの深刻な状況を目の当たりにして，地球温暖化はもはや他人事ではないということを身をもって知ることができた。問題を解決しようとする希望を持って，次世代につなぐために，自分ができることは積極的に実行し，環境問題に立ち向かっていきたい。(2 年)

日本では「いただきます」(命をいただきます) と食事の前に言うように命を大事にする文化があるにも関わらず，フードロスが世界トップクラス（命をゴミにしている）のは変な話だと思った。また，日本のように学校に机があり，給食があり，教科書をみんな持っているのは世界では普通ではないというのが心に響いた。(2 年)

特に印象に残っている言葉の一つに，「1 人の行動でも決して無駄じゃない。強い意志を持って行動できれば，希望を持ち続ければ，自然は必ずこたえてくれる」というものがありました。1 人の小さな行動だって，みんなが実践すればとても大きな差がでるし，毎日少しでも自分ができることを続ければ，それはものすごい量になる，本当にそうだと思います。今までの生活を見直して，この美しい地球を絶対に守りたいです。(2 年)

キリバス帰化日本人の一人目と聞いて驚いた。ハイラム牧師のタイプライターが壊れたために Kiribati と綴るようになったというエピソードは国の名前が決まるきっかけとしてはとても面白いと思った。キリバスに「じゃんけん」が伝わっていることに驚いた。自分達の常識は世界の常識とは全く異なり，日本に生まれたことが本当に幸運なことだと感じた。ネットの情報を全て信じるのではなく，本当に経験した人の話を参考にすることが大切だと思った。”The future we want” を大事にしていきたい。(2 年)